

Rapport

2019
Number
105

多摩大学 | 広報誌 |

Vol.105 Contents

2018年度多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭	02-03
2018年度第2回SRC 発表	04
退任記念最終講義	05
多摩大学体育会フットサル部	05
〈学術交流〉帝塚山大学 学生発表祭	06
〈大学院〉MBA特別公開体験講座	06
〈研究開発機構〉多摩大学社会的投資研究所	06
シルバー・デモクラシー企画	07
多摩地域の名所・旧跡③【開港場の玉楠】	07
2019年度春学期 寺島実郎監修リレー講座 現代解析講座XII	08
2019年度春学期 T-Studio公開講座	08

多摩大学体育会フットサル部 「東京都大学フットサルリーグ 2018」優勝!!



2018 年度 多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭

多摩大学では開学以来、学内の学修にとどまらず、学生が地域をはじめとする学外のフィールドに出て、行政・企業・NPO・地域団体・地域住民などさまざまな関係主体と連携しながら、課題の発見と解決を目指すゼミ活動を行っています。2018 年度も多種多様なプロジェクト、研究活動、アクティブ・ラーニングプログラム（46 プログラム）を推進。2018 年 12 月 8 日、「2018 年度 多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」（主催：多摩大学アクティブ・ラーニング支援センター）を開催しました。

今年度は午前の部：教育目的プログラム（3 会場）、プレゼミポスターセッション（アリーナ）、午後の部：成果提示目的プログラム（3 会場）、2 大学による招待発表、高大接続 AL プログラムの発表がありました。地域、行政、企業、NPO、教育機関の方々にもご出席いただき、本活動の成果を広く共有する機会となりました。



【URL】<https://www.tama.ac.jp/al2018/>

教育目的プログラム	
タイトル	発表者
多摩市立諏訪小学校放課後子ども教室『英語であそぼう！』プロジェクト 〔連携先〕多摩市立諏訪小学校放課後子ども教室「諏訪小ふれんず」	石川晴子ゼミ
近隣交流プロジェクト 2018 〔連携先〕聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会	梅澤佳子ゼミ
世代間交流みんなの食卓プロジェクト 2018 〔連携先〕聖ヶ丘コミュニティセンター運営協議会、市民ボランティア、多摩市青少年問題協議会連光寺・聖ヶ丘地区委員会 〔協力先〕聖ヶ丘小学校、連光寺小学校	
世代間交流八王子駅前サロンプログジェクト 2018 （平成 30 年度大学コンソーシアム八王子学生企画事業補助金対象事業） 〔連携先〕八王子市、八王子市地域包括支援センター旭町、八王子市社会福祉協議会、八王子市民生・児童委員協議会第 4 地区民生委員、協力員、市民ボランティア、大学コンソーシアム八王子	
小西研究会活動報告 〔連携先〕株式会社キープ・ウィルダイニング	小西英行ゼミ
テニス見るからするへの深化に関する研究	杉田文章ゼミ 西尾 秀平
アジアダイナミズム・済州島研修～済州平和フォーラム 2018 〔協定校〕済州漢拏大学 〔協力先〕済州平和研究院	趙佑鎮ゼミ
アニメ聖地を訪れる条件	中庭光彦ゼミ
アニメビジネスの成功条件	
現代におけるアニメ聖地巡礼のパターン	バトルゼミ
日本の小売業（ショッピングモール・デパート・コンビニ・ドラッグストア）から見る日本の消費動向と今後の展望	
多摩祭 野外イベント奥多摩治助芋の販売プロジェクト 〔連携先〕NPO 奥多摩カヌーセンター	松本祐一ゼミ 2 年生
秩父市活性化事業提案プロジェクト 〔連携先〕秩父市役所	松本祐一ゼミ 2 ～ 4 年生
アジア班～中国から何を学ぶか～ 〔協力先〕中国大使館	水盛涼一ゼミ 2 年生（第 1 班）
アメリカ班～メキシコってどんな国？～	水盛涼一ゼミ 2 年生（第 2 班）
EPA による新たな潮流 〔協力先〕スペイン大使館	水盛涼一ゼミ 2 年生（第 3 班）
近くて遠い韓国と日本	水盛涼一ゼミ 2 年生（第 4 班）
リアルなパワースポットと VR で再現したパワースポットにおける脳波の違い	良峯徳和ゼミ 2 年生
アロマやお香などの香りが脳波に与える影響の研究	良峯徳和ゼミ 3 年生
志企業 会社案内プロジェクト昭島版 〔連携先〕昭島市役所、昭島商工会	志企業 会社案内プロジェクト昭島版参加ゼミ
大月市をデザインしよう：新しい時代の地方都市はどうあるべきか 〔連携先〕大月市役所	地域系教員によるプロジェクト地域学習 in 山梨県大月市
飛騨高山 AL における地域観光研究・商品開発提案の成果報告 〔連携先〕（一財）飛騨高山大学連携センター、岐阜県高山市	飛騨高山 AL



午前：B 会場（101 教室）での発表



午前：D 会場（201 教室）での発表



午後：A 会場（001 教室）での発表



午前：プレゼミポスターセッション

成果提示目的プログラム		
タイトル		発表者
日の出町振興プロジェクト 〔連携先〕 日の出町赤いプロジェクト		丹下英明ゼミ
奥多摩活性化事業開発プロジェクト 〔連携先〕 NPO 奥多摩カヌーセンター		松本祐一ゼミ 3 年生
モンゴル帝国の興隆と衰退 〔協力先〕（中国）南開大学、中国人民大学、中国社会科学院歴史研究所		インターゼミ（アジアダイナミズム班）
くらしを助ける AI としごとを取って代わる AI		インターゼミ（AI 班）
日本の消費の現状と今後の展望 ～多摩地域の過去・現在・未来～		インターゼミ（サービス・エンターテインメント班）
ソーシャルキャピタルから紐解く持続可能な地域社会 ～若者が考える豊かな地域とは～		インターゼミ（地域班）
多摩地域とジェロントロジー：100 年時代を幸せに過ごす社会システムの要件とは		インターゼミ（多摩学班）
昭島市 オリジナル婚姻届・出生届プロジェクト 〔連携先〕 昭島市		昭島オリジナル婚姻届プロジェクトチーム
地域福祉法人との連携商品開発 〔連携先〕 福祉法人時の会		プレゼミ Y11 クラス
つながり ～いちょう団地の高齢者が求める自主サークル～ 〔協力先〕 いちょう団地健康クラブ		グローバルスタディーズ学部 田中孝枝ゼミ
日本語教室の指導者たちのやりがい 〔協力先〕 NPO 多文化まちづくり工房		
パクチーブームから見る日本人の特性		
多摩大学 目黒中学校・高等学校 AL 実績報告		多摩大学目黒中学校・高等学校 新教育研究部 部長 谷川貴信
オリンピック開催の日中韓協力について		高大接続 AL プロジェクト 多摩大学目黒中学校・高等学校
増上寺七夕まつり 和紙キャンドルナイト 2018 について		
商品開発の提案「サイダー水素アメ」		
商品開発の提案「南スーダン支援へのハンドクリーム」		
多文化共生に向けた取り組み ～いちょう団地から見た国際交流～		
日韓関係の過去、現在、未来		
目黒区商店街とのイベント企画・運営 「洗足プリンセスフェスタ」「学芸大学東口野菜収穫イベント」		
Unity を使用したゲーム作り		
和紙キャンドルのメッセージ集めの東北訪問について		
招待発表	東京経済大学・小木ゼミによる企業とのコラボ活動 ～ web 国分寺物語、TFT ランチ企画・販売、こんなお菓子あったらいいなプロジェクト～	
	TAMATEHACO 多摩×手×箱 ～多摩の手作りを運ぼう！～	東京経済大学 山本聡ゼミ
	ラーメンを観光資源に	帝塚山大学アドバンス・プログラム （経済・経営・法学選抜）チーム
	「奈良の昔のくらし」プロジェクト	帝塚山大学現代生活学部 住居空間デザイン学科チーム

※ AL : アクティブ・ラーニング

プレゼミ (1 年生) ポスターセッション					
タイトル	クラス	タイトル	クラス	タイトル	クラス
・タピオカドリンクの経営戦略	X01	・いじめ問題を考える	X12	・日本・中国・韓国からみた他国の料理	Y05
・どうする!?これからの働き方!!!!!!	X02	・スマホ依存を考える		・ネット社会の情報発信を問う ～ SNS 実名制は是か非か?	Y06
・東京五輪での宿泊施設不足とは!!!!		・知育ゲーム「ネオ・モノポリー」	X13	・15 年つづくコンテンツの作り方 ～ブリキアから何を学ぶか～	Y07
・セブンスイーツをほかのコンビニと比較 してみた	X03	・知育ゲーム「難漢字神経衰弱」		・ひあり	Y08
・ユニクロの経営戦略		・知育ゲーム「拡張型パズル」		・子どもの貧困	
・eSports	X04	・世界遺産を学ぶ: 自然遺産チーム	X14	・働き方改革	Y09
・オリンピック施設の再利用		・世界遺産を学ぶ: 文化遺産チーム		・少子高齢化と国民負担 ～「明治 150 年」とこれからの日本より	
・オリンピック施設の廃墟化について	X05	・世界遺産を学ぶ: 複合遺産チーム		・人気テーマパークにおける経営術	Y10
・アイスが売れる秘訣		・近年のプロ野球事情 ～各チームの勝敗の決定要因に関する分析	Y01	・スポーツ用品店ゼビオの経営について	
・栄養ドリンク	X06	・もはや日常「You tube」の実態に迫る	Y02	・地域福祉法人との連携商品開発	Y11
・きのこの山とたけのこの里		・変わる銀行経営	Y03	・日中韓台の食文化の紹介	Y12
・家で作る宝石	X07	・変わる就職戦線		・占いは本当に当たるのか?	Y13
・サバイバルゲーム		・蒟蒻の食文化		・サッカーについて	Y14
・阿久悠は現代の若者の心をとらえるのか?	X08	・日本におけるクリスマスの商業的活用			
・2020 年、私たちに何ができるか?	X09	・日本のスポーツ業界のグローバル戦略	Y04		
～多摩市と自転車ロードレース		・旅行業界について			
・e スポーツについて	X10	・玩具業界の課題と解決策			
・サマータイムについて		・食品業界の現状と課題 ～市場拡大を目指して海外へ～			
・自動運転技術について	X11	・金融業界の課題と解決策			
		・スマート化するラジオ業界			

2018 年度 第 2 回 SRC (Student Research Conference) 発表

2019 年 1 月 24 日、多摩キャンパスにて 2018 年度第 2 回 SRC (Student Research Conference) が開催されました。

SRC は経営情報学部の学生がホームゼミにおける研究成果を発表する場で、年 2 回 (夏・冬) 行っています。発表者には、発表と質疑応答の時間 (M: 10 分、L: 15 分) が与えられました。質疑応答では、教員や学生から、「今後の見通しは?」「アンケートはどのような人から収集したのか?」「今後の改善策は?」「文章はもっと簡潔にした方がよい」など様々な質問や意見、アドバイスがありました。

プログラム	
211 教室	212 教室
「授業で生徒が座る席についての実験」 M 大森拓哉ゼミ 品川 勇樹、平田 大貴、真坂 省吾	「スポーツデータ分析のためのアプリケーションの開発」 L 出原至道ゼミ 上原 拓真
「講義中の私語や居眠りスマホいじり抑制」 M 大森拓哉ゼミ 高田 麻由、高橋 歩夢、山口 裕也	「表情の感情認識による対人関係の評価」 L 出原至道ゼミ 矢田 慎之佑
「カクテルパーティー効果」 M 大森拓哉ゼミ 角田 信鳳、篠原 大輔、坪井 優吾	「これからの日本における NPO の重要性を考えるー地域に根ざした住民主体の NPO に注目してー」 M 梅澤佳子ゼミ 荒井 浩樹
「タバコは正規な場所に捨てましょう!!!」 M 大森拓哉ゼミ 小島 龍郎、周 夢瑩、夏目 俊成	「図書館の使い方改善」 M 大森拓哉ゼミ 秋山 京吾、金子 拓海、平山 佳苗
「多摩大学本気で入ろうと思った人 0 人説」 M 大森拓哉ゼミ 土屋 智博	「アゴラのゴミはポスター 1 つで減るのか」 M 大森拓哉ゼミ 石川 将基、中山 凱
「エレベーターの調査」 M 大森拓哉ゼミ 杉谷 佳希、村下 駿、渡邊 朗伸	「東京ディズニーリゾートの秘密」 L 大森拓哉ゼミ 西村 智也
「アガラについての調査」 M 大森拓哉ゼミ 佐藤 奈々、海藤 広、浦橋 大地	「3D プリンターへの挑戦」 M 彩藤ひろみゼミ 荒井 直樹
「喫煙所のポイ捨て調査」 L 大森拓哉ゼミ 岩渕 匡太、清水 茉歩、松山 明日翔	「CG だからできる不思議な世界」 M 彩藤ひろみゼミ 村山 竜晟
「テレビ番組と SNS の関係性」 M 久保田貴文ゼミ 工藤 春哉、安藤 元樹	「ゲームジャムに向けて」 M 彩藤ひろみゼミ 彩藤ゼミ 2 年生全員
「クーポン利用における店舗の集客効果についてーヘアサロンチェーン店の POS データを例にー」 M 久保田貴文ゼミ 稲庭 克洋	「技術の進歩と著作権侵害の関係性」 M 齋藤 S 裕美ゼミ 今泉 宏樹、鎌田 玲央、鎌田 聖也、萬谷 健吾
「テキストマイニングによって浮かび上がる多摩大生の私の志の傾向」 M 久保田貴文ゼミ 杉山 悠太	「著作権侵害と流行の関係」 M 齋藤 S 裕美ゼミ 柴田 勇汰、須藤 文哉、井口 凌河
「脳波と VR の関連性」 L 良峯 徳和ゼミ 河崎 光将、早坂 一哉	「著作権侵害と無業者の関係」 M 齋藤 S 裕美ゼミ 羅 語嫣、富岡 健太、藤井 智基
	「著作権侵害された企業と侵害者の年代」 M 齋藤 S 裕美ゼミ 清水 睦也、菅野 真暉、塚越 絃多、大津 駿希
	「スタジアムの観客 (入場者) を増やすためのプラン提案」 L 中村その子ゼミ 小川 裕喜

久恒啓一教授、飯田健雄教授「退任記念最終講義」

2019年1月17日、今年度で退任される久恒啓一教授と飯田健雄教授による「退任記念最終講義」が行われました。はじめに杉田文章経営情報学部長より、各教授のプロフィールが紹介されました。「久恒教授は2008年に多摩大学教授に就任、学長室長、学部長、副学長、その他多くの役職を担い、10年間多摩大を率いてくださりました。多摩大の歴史上、なくてはならない存在です」。また、「飯田教授は、開学1年前の開学準備室の頃から、多摩大学をつくりあげる作業にたずさわってこられました。開学と同時に教壇に立たれ、専任教員として30年間多摩大の教育を支えてくださりました」。そして、「専任教員としてお聞きすることができる最後の講義をしっかりと胸に留めるよう拝聴しましょう」と会場に呼びかけました。

講義終了後、両教授には大学から花束と同窓会から記念品が贈呈され、学生や教職員は温かい拍手で感謝の思いを伝えました。

「これまでの私、これからの私 失敗・未来」久恒 啓一 教授

教育、社会貢献、プライベート、家族などあらゆる情報は、自身で管理・運営するHPに日々蓄積。「自分のつくったビッグデータがなければ知的生産物は生まれない」。学生時代や会社員時代の失敗談を語り、「若いときに失敗することは重要」。「成功の反対は失敗ではない。なにもやらないこと」など失敗をめぐる名言を紹介し、「失敗をしてその教訓をどう得たかが大切。人生観、価値観を持たない人は弱い」と話しました。「自分はどうするのか、人生のライフデザインを考えておくことが重要」「人の偉さは人への影響力の大きさ。人により影響を与えられる人になるよう常に学び続けなければいけない」。退任に際し「一片の悔いもなく、爽やかな気持ちで多摩大を卒業できるのはうれしい」「未来を語らなければ発展はない。現状の問題を解決するだけでなく、未来を考える習慣を身につけてください」。



「A PICTURE TELLS A THOUSAND OF WORDS」飯田 健雄 教授

タイトルは英語のことわざで、「写真は言葉よりも多くを語る」という意味。生い立ちから現在まで写真で自身を紹介。「多摩大での30年間はあっという間に過ぎ去ってしまった」。また、「生まれた時代によって生き方が違う。価値観自体に進歩の有無はない」。幼少期は家業を手伝い、経営者教育は小学校1年から。高校時代は三段跳びの選手、オーストラリアには奨学金で留学。タイのクワイ川、ベトナムのホーチミンとサイゴン、ブラジルのサンパウロの日本人街、メキシコのテオティワカンの遺跡、カナダのトロント、ギリシャ、タヒチのビーチ、中国の広州など豊富な海外体験を語り、「若いうちに海外のいろいろな場所に行くように。行ってみないと世界は分からない。行ったからこそわかることがあります」。最後に「これからの時代は、想像できないことを想像して生きてください」と会場に伝えました。



多摩大学 体育会フットサル部

「東京都大学フットサルリーグ 2018」全勝優勝!!

2019年2月27日、駒沢オリンピック公園屋内球技場にて、「Super Sports XEBIO 東京都大学フットサルリーグ 2018」第9節 多摩大学フットサル部 対 慶應義塾大学サッカー部の試合が行われ、8対1で多摩大学が圧勝しました。この大会は東京都内の大学のフットサルチームが対戦するリーグで、全7試合が終了した同日、多摩大学の全勝優勝が決まりました。

表彰式の後、キャプテンの南雲颯太さん（2年生）は、「対戦相手の慶應義塾大学には2回負けているので、リベンジしたかった。チームが一つとなり、みんなで勝つことだけに集中、自分たちのフットサルで戦うことができた。キャプテンとして、チームの雰囲気がよくなるよう意識して声かけをしました」。また、福岡有紘監督は優勝の要因として、「みんなが主体性をもって、自分たちで考えながらゲームを



つくり上げたことが大きい。私は一歩下がって、それをサポートするかたちで接している。練習やスケジュールも自ら考えるなど能動的に動けるチームになってきたことが、ピッチの中のゲームにも表れています」。選手たちへのメッセージとして、「若いので多くの失敗を経験するかもしれません。失敗しながらでもいい。時間もかかるでしょうが成長してほしい。努力して都の大学フットサルで一番を取ったことにより、大きな達成感を得たと思う。フットサルの経験が、この先の彼らの人生につながっていけばいいと願っています」と話しました。

〈2018年度 その他の主な戦績〉（2019.3.6 現在）

○エイブルチャンピオンズカップ第2回関東大学フットサルリーグ 2018 :

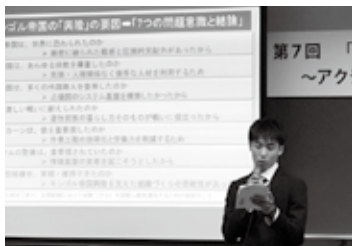
8勝1敗1分（全10試合）→準優勝（KOBECUP出場権獲得 3/19・20）

○F育成リーグ：7勝0敗1分（全8試合）

○第24回全日本フットサル選手権 東京都大会予選Aブロック：3回戦まで進出（勝ち残り式トーナメント）

第7回『実学の帝塚山大学』実践学生発表祭～アクティブ・ラーニングの実践事例～

2019年2月16日、本学と「学術交流に関する包括協定」を締結している帝塚山大学の東生駒キャンパス（奈良県奈良市）にて「第7回『実学の帝塚山大学』実践学生発表祭～アクティブ・ラーニングの実践事例～」が開催され、本学のインターゼミ（社会工学研究会）「アジアダイナミズム班」（学生3名）と「サービス・エンターテインメント班」（学生4名）が参加しました。「アジアダイナミズム班」のテーマは「モンゴル帝国の興隆と衰退」、「サービス・エンターテインメント班」は「日本の消費の現状と今後の展望～多摩地域の過去・現在・未来～」をテーマにインターゼミで一年間積み上げた研究成果を発表しました。昨年12月8日には本学で開催した「多摩大学アクティブ・ラーニング発表祭」に帝塚山大学から2チーム（学生5名）の参加があり奈良の地域観光や昔のくらしをテーマに研究発表が行われました。研究発表を軸に、学生と指導教員が毎年交流を深めており、互いに切磋琢磨する貴重な機会となっています。



インターゼミ「アジアダイナミズム班」発表



インターゼミ「サービス・エンターテインメント班」発表



杉田文章 経営情報学部部長 講評

大学院

多摩大学大学院 MBA 特別公開体験講座

多摩大学大学院 MBA は社会人のための超実学志向ビジネススクールで、20代後半から70代まで幅広い年代の方々が学んでいます。2019年2月3日 TKP 品川カンファレンスセンターにて、本大学院入学に関心がある方を対象に「大学院 MBA 特別公開体験講座 人生が飛躍する『知の再武装』。成長を続けるための『7つの技法』」を開催。寺島実郎学長と田坂広志教授が、ビジネスパーソンに必要なグローバルな視点やビジネススキルに役立つ知識などについて講演を行いました。また、徳岡晃一郎研究科長による大学院説明会では、本大学院の5つの特長が「超実学志向 MBA」「少人数クラス」「イノベーターシップ」「論文プロジェクトと白熱ゼミ」「独自のリベラルアーツ講座」、+αとして「品川キャンパスという恵まれた立地」「卒業生同士の強いネットワーク」であるとし、TV番組で放映された映像とともに本大学院における学びを紹介しました。

○「知の再武装」が何故必要なのか ～ジェロントロジーの視界から～ 寺島 実郎学長

AI、IoT、ビッグデータ等の著しい進展と環境変化、世界の構造変化、アジアダイナミズム、このような時代を生き抜くためには戦略が必要。人生100年時代に耐え、人生を飛躍させるための鍵となるのが「知の再武装」である。異次元高齢化時代、都市郊外型団地は新たな問題を抱えている。多摩大学はジェロントロジー（高齢化社会工学）に取り組み、都市郊外型大学として果たすべき役割を模索している。

○「学び続け、成長し続けるための『7つの技法』一なぜ、優秀な人ほど成長が止まるのか」 田坂 広志教授

成長を妨げる「学歴の壁」「経験の壁」「感情の壁」「我流の壁」「人格の壁」「エゴの壁」「他責の壁」。成長し続ける人は、この「7つの壁」を越える技法を知っている。人生を拓くためには「反省の技法」「心理推察の技法」「自己観察の技法」など「7つの技法」が必要である。



研究開発機構

多摩大学社会的投資研究所 設立記念講演会及び記者発表会を開催

多摩大学は、社会的価値実現のためのソーシャルファイナンス領域の中で、特に社会的投資を主な対象領域とする日本初のシンクタンクとして、多摩大学研究開発機構の中に社会的投資研究所を設置しました。

当研究所では、ソーシャルファイナンスに関わる内外の幅広い専門家ネットワークを形成し、各国の先進的な取り組みの調査・研究、政策提言などの普及・啓発活動を行うほか、社会的インパクト評価、セミナー、ワークショップ、トレーニングプログラム、委託研究などの事業を行います。これらの事業は、一般財団法人社会的投資推進財団、Asian Venture Philanthropy Network (AVPN)、多摩大学ルール形成戦略研究所、新経済連盟など、内外の機関と提携して推進します。

2019年1月21日 日本財団大会議室にて、当研究所の設立記念講演会及び記者発表会として、寺島実郎学長による講演会を開催。研究所が構想する新しい社会像とそこにおける社会的投資の意義についてお伝えするほか、これからの研究所の事業計画について紹介しました。



活動内容例

- ・インパクト・サロンの開催 (AVPN 総会に参加するスタディ・ツアー)
- ・新経済連盟ベンチャーフィランソロピー PT やグローバル社会的インパクト投資ステアリング・グループなどと連携した政策提言を実施
- ・ソーシャル・ファイナンスの基礎となる社会的インパクト評価手法や投資マネジメント手法に関するワークショップ・セミナーを適宜開催
- ・ソーシャル・ファイナンスに関する情報交流・発信を実施

第6弾 山梨県南アルプス市で「やまなしフォーラム × ワイナリー見学」を開催

多摩大学では「リレー講座」を受講する高齢者を対象に山梨県南アルプス市で2018年12月2日に今年度3回目となるシルバー・デモクラシーツアーを開催しました。農業体験を通してリタイア後の世代が新たな社会参画を考える企画で、約30名が参加しました。

午前中は山梨県甲斐市の「サントリー登美の丘ワイナリー」を訪れ、醸造所の見学や試飲を楽しみました。ワインの製造にはこれまでの企画で収穫体験をしてきた品種のブドウも使われており、農業体験をより身近なものに感じることができました。

午後からは本学が主催する「やまなしフォーラム」が開催され、南アルプス市長の挨拶から始まり、第一部は寺島実郎学長による「スーパーメガリージョンが山梨に与えるインパクト—ジェロントロジーの視界から—」と題した講演を行いました。「2053年には日本の総人口が1億人を割り込む見通しであり、深刻なのは単に人口減少ということだけでなく、総人口1億人のうち4割が65歳以上になる異次元の高齢化社会にどう立ち向かうかが問われている。都市郊外の高齢者のための社会参画のプラットフォームをどのように作るか。今こそ『知の再武装が必要』である」と語りました。第2部は地元の山梨大学、山梨県立大学、山梨学院大学と多摩大学の4大学で「やまなしの課題と未来」についてパネルディスカッションを開催、地域の未来を考え、個人や地域社会を巻き込んで解決策を見出すことがこれからの大学の役割だということを強く感じるフォーラムとなりました。

本学は、今後も継続して高齢者が活力を持ち、生き生きとできる仕組みづくりを推進していきます。



寺島学長講演



パネルディスカッション



ワイナリー見学



参加者で記念撮影

地域再発見

多摩地域の名所・旧跡 ③

開港場の玉楠 (横浜市)

横浜開港資料館で開国と開港の歴史をたどる

1981年に開館した横浜開港資料館には、江戸時代から昭和初期までの横浜港の歴史に関する資料が展示され、中庭には開国の歴史を物語る1本の玉楠の巨木があります。

嘉永7年2月10日(1854.3.8)、アメリカ艦隊ペリー提督が約500名の武装水兵とともに横浜に上陸し、横浜応接所で日米会談が行われました。このときの様子は、ハインの水彩画を原画とする石版画『日本遠征画集』(1855年刊)に描かれています。画面の左側には応接所、右側には水神の祠と大木が見られ、この大木が横浜開港資料館の玉楠の前身だといわれています。応接所は現在の神奈川県庁本庁舎付近、水神の森は横浜開港資料館、神社は旧英国総領事館の辺りとされます。総領事館は1923年の関東大震災で倒壊焼失し、現在の建物は1931年に再建されたものです。玉楠は慶応2年(1866)の大火で焼失、さらに震災の被害も受けながらも移植された後に再生し、歴史を引き継ぐ有形文化財となりました。

3月3日(1854.3.31)に横浜で日米和親条約を締結。12条からなる条約では、アメリカ船への薪・食料供給のための下田(静岡県)、箱館(北海道)の開港などが規定されました。この条約は神奈川条約ともいわれ、これにより鎖国状態だった日本の開国が実現したものでした。安政5年6月19日(1858.7.29)、米艦船ポーハタン号上でアメリカ総領事ハリスと日米修好通商条約を締結、安政6年6月2日(1859.7.1)に横浜は開港します。宿場町の神奈川ではなく半農半漁の寒村、横浜村が選ばれたのは、日本人との紛争を避けるためでした。万延元年(1860)、外国人居留地と元町との間に堀川を開削し関門となる橋が架けられ、内側は「関内」と呼ばれました。慶応2年の大火後は、日本人市街と外国人居留地の間に防火帯として、現在の日本大通りがつくられました。シルクセンター横の「英一番館」とは、居留地で最初の商館とされるイギリスのジャーディン・マセソン商会の呼称です。



玉楠の木



旧英国総領事館



開港広場



英一番館跡

「世界と日本の構造変化の本質を探る 一知の再武装への挑戦」

多摩大学のリレー講座も 12 年目を迎え、延べ参加者 14 万人を超え、その持つ意味も進化してきました。
激動する世界に正対し、時代認識を深める「知の再武装」を試みたい。

【会 場】多摩キャンパス 001 教室 【時 間】14:50～16:10 (受付開始 14:00)

【受講料】一般 13,000 円 (全 12 回分) 【ライブビューイング受講料】6,000 円 (湘南・新都心サテライト(九段))

特別割引受講料 11,000 円 *多摩大学後援会会員、多摩市および稲城市の在住・在勤者、他大学学生、多摩大学卒業生・大学院修了生

【主 催】多摩大学 【後 援】多摩市、多摩信用金庫 【監 修】寺島実郎 (多摩大学学長)

【H P】<http://relay-kouza.net/>

	開講日	講師 (敬称略)	肩書・役職等	テーマ
1	4 月 18 日 (木)	寺島 実郎	多摩大学学長 (一財) 日本総合研究所会長	「2019 年、世界の構造変化と日本の今」
2	4 月 25 日 (木)	白井 さゆり	慶應義塾大学総合政策学部 教授 元日本銀行審議委員	「世界経済情勢と日本」
3	5 月 9 日 (木)	趙 佑鎮	多摩大学経営情報学部 教授・事業構想学科長	「韓流・日流現象からみる アジアダイナミズムとイノベーション」
4	5 月 16 日 (木)	寺島 実郎	多摩大学学長 (一財) 日本総合研究所会長	「日本の経済・産業・社会の構造変化」
5	5 月 23 日 (木)	下斗米 伸夫	法政大学法学部 教授	「プーチン・ロシアと日ロ関係」
6	5 月 30 日 (木)	前嶋 和弘	上智大学総合グローバル学部 教授	「トランプ政権の現在と今後の世界」
7	6 月 6 日 (木)	米倉 誠一郎	法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科 教授	「松下幸之助に学ぶイノベーション」
8	6 月 13 日 (木)	寺島 実郎	多摩大学学長 (一財) 日本総合研究所会長	「17 世紀オランダからの視界、その後 —世界宗教への視座—」
9	6 月 20 日 (木)	佐藤 洋行	多摩大学経営情報学部 准教授 株式会社ブレインパッドマーケティングプラットフォーム本部副本部長	「ビッグデータと意思決定」
10	6 月 27 日 (木)	桜田 一洋	理化学研究所医科学イノベーションハブ推進 プログラム 副プログラムディレクター	「人工知能が創る未来社会と保健医療」
11	7 月 4 日 (木)	国谷 裕子	キャスター	「SDGs が私たちに問いかけるもの」
12	7 月 11 日 (木)	寺島 実郎	多摩大学学長 (一財) 日本総合研究所会長	「2019 年、夏から秋への展望」

【お問い合わせ】多摩大学寺島実郎監修リレー講座事務局 TEL: 042-337-7300 E-mail: relay@gr.tama.ac.jp

2019 年度 春学期 T-Studio 公開講座

地域社会の発展に寄与し、社会人の教養を高め文化の向上に資するため、本学経営情報学部の教授陣による公開講座を開催します。

【会 場】多摩キャンパス T-Studio 2F セミナールーム 【時 間】13:00～14:00 ※第 2 回 (4/25) は 12:00～13:00

【受講料】各回 1,000 円 (多摩大学後援会会員・リレー講座受講者 無料) 【H P】<https://www.tama.ac.jp/t-kouza/>

	開講日	講 師	テーマ
1	4 月 18 日 (木)	梅澤 佳子 教授	「からだのケアを考える ～ほぐすことから始めよう!～」
2	4 月 25 日 (木)	趙 佑鎮 教授	「日韓関係これで大丈夫なの?」
3	5 月 9 日 (木)	久保田 貴文 准教授	「データサイエンス入門 ～紅茶の違いのわかる婦人～」
4	5 月 16 日 (木)	浜田 正幸 教授	「人生 100 年現役キャリア ～ポジティブ心理学の最前線と実践的キャリア研究から～」
5	5 月 23 日 (木)	澤村 珠美 ゲスト講師	「世界で JAPAN が大人気! ～現代のグローバル化について考えよう～」
6	5 月 30 日 (木)	今泉 忠 教授	「AI 時代のデータに基づくデザイン力 ～AI と共存するために～」
7	6 月 6 日 (木)	飯田 健雄 名誉教授	「英語で脳トレ」
8	6 月 13 日 (木)	村山 貞幸 教授	「経産省提唱「人生 100 年時代の社会人基礎力」 ～全世代に求められるエッセンシャル能力とは?～」
9	6 月 20 日 (木)	佐藤 文平 専任講師	「北欧のジェロントロジーに学ぶ ～デンマーク(ホルケホイスコーレ)を参考に～」
10	6 月 27 日 (木)	増田 浩通 准教授	「災害に強いコミュニティデザインに関する研究の取り組み ～災害対応ゲーミングと防災意識アンケートの結果から～」
11	7 月 4 日 (木)	中庭 光彦 教授	「水開発文化から都市を読む ～大東京水道と郊外化～」
12	7 月 11 日 (木)	飯田 健雄 名誉教授	「既に起こった未来 ～ピーター・ドラッカー再訪～」

【お問い合わせ】多摩大学 公開講座事務局 TEL: 042-337-7300 E-mail: kouza@gr.tama.ac.jp